

埼玉王

第17回総会・懇親会開催

駐日タイ王国特命全権大使講演

去る7月1日に埼玉・タイ王国友好協会の第17回総会が川越東武ホテルで開催され、約90人の出席がありました。平成26年度収支決算、同27年度事業計画案・同予算案、役員改選の3議案が上程、いずれも全会一致で承認されました。総会後、シハサック・プアングゲオ駐日タイ王国特命全権大使が「日本とタイ、古から未来へ歩むパートナー」をテーマに講演Ⅱ2面参照Ⅱ、出席された皆さんは熱心に耳を傾けられました。

総会では26年度タイ親善訪問の結果報告が行われました。メーホンソン県メーピン校に保育園教室（1棟4教室）が建設され、2月に訪問団が現地を訪れた様子が、スライドを交えて報告されました。役員改選では、副会長に（二社）埼玉県経営者協会名誉会長西村和

義氏、同じく副会長に（一社）埼玉県商工会議所連合会会長佐伯鋼兵氏が就任しました。平成27年度についても、タイ王国大使館に関わる行事に協力・参加し、友好協力事業をさらに推進していくことを確認しました。



▲大使ご夫妻と原会長



▲大使へ上田知事からのメッセージを渡す県庁の小池国際課長（右から1人目）



▲教育関連施設建設の事業報告などが行われた総会の様子



▲中締めで挨拶する西村副会長



▲大使館の方々とは懇談する会員の皆さん



▲乾杯の音頭をとる利根副会長

「草の根外交」の成果着々
深まる友好関係



会長
原 敏成

当協会は、原宏前会長のもと埼玉県とタイ王国のさらなる友好関係の進展を図ることを目的として、平成11年3月16日に設立され、今年で16年が経ちました。会員の数は7月1日現在で法人会員107、個人会員191人になっており、多くの皆さまに当協会の趣旨にご賛同いただいておりますことに、心より御礼申し上げます。設立以来、当協会では会員の皆さまのご協力のもと、民間レベルでの「草の根外交」に取り組み、タイ・ロイヤルプロジェクトへの協力や教育関連施設の建設、寄贈などを行ってまいりました。

平成26年度はメーホンソン県、パーイ郡に建設を進めておりました「メーピン校校舎建設工事」が完了し、本年2月に現地で引渡式を行いました。総会後の講演では、駐日タイ王国特命全権大使のシハサック・プアングゲオ大使に「日本とタイ、古から未来へ歩むパートナー」についてご講演いただきました。大使にはご多忙の中、本会に駆けつけていただきました。誠にありがたいことと思っております。これも皆さま方のご支援、ご協力をいただき行っております当協会の活動に対しての大使のお気持ちの表れと感じております。

皆さま方の常日頃のご協力により感謝申し上げますとともに、今後益々のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

役員紹介

総会審議の結果、次の方々が役員に就任されました。(敬称略)

▽顧問

山口泰明(衆議院議員)、土屋
品子(同)、西條正和(元新電
元工業(株)常務取締役)

▽会長 原敏成(武州ガス(株)
取締役社長)

▽副会長 利根忠博(埼玉経
済同友会代表幹事)、西村和義
(一社) 埼玉県経営者協会名誉
会長)、佐伯鋼兵(一社) 埼玉
県商工会議所連合会会長)

▽幹事 鎌田仁一(本田技
研工業(株)生産業務室長)、前島
静顕(医療法人顕正会理事長)、
細沼哲夫(日本伸管(株)代表取締
役会長)、藤池誠治(株)デサン
代表取締役会長)、吉野寛治(吉
野電化工業(株)代表取締役社長)、
長尾美津子(一社) ガールス
カウト埼玉県連盟副連盟長)、
小嶋一晃(株)テレビ埼玉取締役
編成技術担当総務局長)、島村
健(株)島村工業代表取締役社長)

▽監事 大久保敏三(株)丸広
百貨店代表取締役会長)、関根
勇治(初雁興業(株)代表取締役社
長)

なお、事務局長は7月1日の
総会をもって、武州ガス(株)の吉
田正廣(監査役)から萩原富士
久(取締役社長室長)へ交代し
ました。

**新たに
副会長
に就任**



西村和義
(一社)埼玉県経営者協会名誉会長



佐伯鋼兵
(一社)埼玉県商工会議所連合会会長

第16回「タイ・フェスティバル」



▲(左から) タナサック副首相兼外務大臣、
原会長、シハサック・プアングゲオ駐日
タイ王国特命全権大使

タイ王国大使館主催「タイ
・フェスティバル2015」
が、今年も5月16～17日の両
日、東京・代々木公園イベン
ト広場で開催されました。
当協会の原敏成会長も大使
館より開会式への招待を受け、
事務局員とともに出席しまし
た。

「タイ・フェスティバル」は、
2000年に「タイ・フード
フェスティバル」として第1
回が開催され、今年で16回目
タイ関連の日本国内最大のイ
ベントで、2日間で35万人が
来場しました。

特別展示ブースでは「タイ
のお米とくらし展」が開かれ、

今年のテーマ "Have a RICE day"



主食であるタイ米やそれを加工
した麺や化粧品、せっけんなど
の紹介、ココナッツミルクと米
粉等を混ぜた焼き菓子「カノム
クロック」などの実演が行われ
ました。またステージでは、タイ
のアーティストのライブや、
タイ伝統舞踊とタイ式人形劇、
ムエタイのデモンストレーショ
ンなどが行われました。

「美味しいよー」。
焼き菓子「カノムクロック」
の実演



▲装飾品製作の実演も人気コーナー

シハサック・プアングゲオ大使の講演 「日本とタイ、古から未来へ歩むパートナー」



▲講演するシハサック・
プアングゲオ駐日タイ
王国特命全権大使

本日、埼玉・タイ王国友好協
会原敏成会長より協会の総会に
ご招待頂き、誠にありがとうございました。
タイ、タイ埼玉の友好関係を促進
する重要な役割を果たして来ら
れたことに心より御礼申し上げます。
また、協会の設立者である
原敏成会長の重要な役割、業
績を忘れることはないでしょう。
私事ですが、駐日大使に着任
して3か月になりましたが、実
は20年前にも日本に赴任して
おりました。そのため、日本には
親しみを感じ、印象に残ること
が多くあります。昨今、日
本はアベノミクスにより景気回
復を加速し、国際社会において
も安全保障及び政治的な役割を
増してきています。従って、日
本を取り巻く経済状況、安全保
障課題は親密な関係にあるタイ
にも影響があります。

日本の琉球王国とタイのアユ
タヤ王朝の交易関係は、600
年も前から始まりました。当時
の琉球王国とアユタヤ王朝の交
わりの重要な証は、沖縄県名産
の泡盛です。なぜならば、泡盛
はジャポニカ米を原料としない

唯一の日本酒で、昔からタイ米
を原料として製造されています。
そのことを思い出して頂けたら幸
いだと思います。そして、日本
政府がタイ米をより多く輸入す
るよう願っています。

現在、タイと日本の関係は王
室と皇室、政治、経済及び国民
レベルまで親密な関係にありま
す。とりわけ、日本政府が短期
滞在目的で訪日するタイ人に対
する査証免除措置をとった20
13年から日本へ渡航するタイ
人観光客は増加し、昨年の訪日
タイ人観光客数は25万人から70
万人に増えました。日本各地で
タイ人観光客を頻繁に見かける
ようになりました。

タイと日本の経済関係は常に
発展しており、特に1985年
のプラザ合意後、円高により製
造業や裾野産業などの日本から
の投資がタイにたくさん入りま
した。タイの強い経済基盤は、
日本との貿易及び日本からの投
資のおかげだと言っても過言で
はありません。それゆえ、タイ
にはトヨタ、ホンダ、日産など
の日本の全ての大手自動車メー
カーが集中し、世界第8位の自
動車輸出国、重要な自動車生産
拠点となっています。

今年末に人口6億人の巨大市
場であるアセアン経済共同体が
発足します。日本の投資家のチ
ャンスでもあります。アセアン
やメコン地域の重要な投資拠点

タイ王国大使館主催による 日本の地方組織との会議に当協会も出席



▲サリン公使によるタイ王国経済の現状説明

タイ王国大使館は、去る9月
30日、初の試みとして、タイ国
名誉領事(2市)、地方友好協
会(当協会など4協会)及びタイ
に事務所を設置している自治
体(埼玉県など12府県)を招き、
会議を開催しました。会議では、
経済・観光情報等、タイに関す
る最新の情報を提供するととも
に、地方自治体レベルにおける
日タイ両国の将来に向けた協力
関係など意見交換されました。
シハサック・プアングゲオ
駐日タイ王国特命全権大使ほか
関係公使等からは、(以下発言
の概略)「タイは民主主義を大
事にしており、今後とも持続可
能な民主主義をめざしている。
政治の安定は戻りつつあるので、

この機会に改革を進めたい。改
革の一つにインフラの向上があ
る。バンコク-チェンマイ間を
結ぶ高速鉄道を始め、東西南北
8つの路線が日本の企業体によ
って建設される予定です。また、
タイ・プラスワン構想では、近隣
諸国との共存・発展を目指して
います。ダウエイ経済特別区に
ついては、すでに日タイ間で開
発覚書に調印されました。これ
により、マラッカ海峡に替わる
輸送ルートができます。近隣諸
国とも特別区を設置したい。

貿易では、日タイの関係は緊
密で、ともに重要な貿易相手国
となっている。これまでのよう
なタイから原材料等の輸出に対
して、日本からの自動車、機械
電気・電子等の輸入という貿易
から、近年は、タイの経営体質
の改善により、インテリア、観
光、ホテル、コンテンツなどの
サービスや太陽光、ウッドペレ
ットなどエネルギー分野も手が
けて日本へ輸出しています。

自治体との関係では、これま
でに多くの自治体との交流があ
り、タイとのMOU(了解覚書)
を締結している県もある。日タ



▲萩原事務局長が出席(左から3人目)

イ修好120年の祝賀行事への
協力など今後の支援・協力体制
についてご提案いただきました。
そのために、各自治体を訪問し
て協議していきたいと考えてい
ます。また、観光面でもビザの
規制緩和により今年はずでに8
0万人を超える観光客が訪日し
ている。各地でトラブルなどがあ
れば、大使館へご相談いただき
たい。経済、観光など引き続き
日本のご理解・ご協力をお願い
したい。」などご発言がありま
した。

また、各自治体、支援機関等
から自己紹介及び支援の取組等
について説明があり、その後の
懇親会において交流が行われま
した。



タイ語の観光案内リーフレットの ご紹介

「小江戸川越見聞録」 川越市

2020年東京オリンピックのゴルフ競技が川越市内の「霞ヶ関カンツリー倶楽部」で開催される予定であることから、同市は川越の魅力を国内外に発信するため、シティプロモーション映像「時空を超える旅～JOURNEY THROUGH SPACE-TIME～」を製作。今回紹介するタイ語の川越観光案内「小江戸川越見聞録」=写真=は、その紙媒体です。

タイ人のメラニーさんら着物姿の4人の外国人が、川越まつりや食文化、提灯づくりなど川越の魅力を座談会形式で語り合っています。A3三つ折り。オールカラー。問い合わせは、川越市政策財政部オリンピック大会準備室（049・224・6315直通）へ。



パナッター・
マニーサーイ

13歳



スパナイ・
パイイチッド

13歳



パーヌワット・
サンカースト

13歳

**ダルニー奨学金
本年度の授与者**

本年度の新規授与者は、次の3名です（年間1人1万4400円で3年間）。
ダルニー奨学金は、経済的貧困のため、教育の機会に恵まれないタイ・ラオス・ベトナムなどの子どもたちの中学生就学を支援する国際教育里親システムです。



▶「タイローカルの旅」



▶「バンコクの今昔」

「タイ友好促進をかたちに」 JTBFが冊子出版

50年前と現在を写真で対比した「バンコクの今昔」、おすすめめのタイの旅を紹介する「タイローカルの旅」の2冊が出版されました。発行は、日タイ・ビジネスフォーラム（会長・北山 禎介三井住友銀行会長）＝JTBF＝。JTBF設立13年が経過、日タイ友好促進の形にしようとして、同冊子を出版しました。

比較したもので、1960年代から半世紀におよぶタイの激しい変化を垣間見る貴重な写真集。「タイローカルの旅」は、バンコクやチェンマイなどの大都市への旅ではなく、視点を変えてローカルな旅にスポットをあてています。

JTBFは、日本とタイの関係を一層強化促進するため、タイに駐在経験のある日本人ビジネスマンが個人の立場で参加し、

●タイ国経済はインフラ、投資、貿易、観光など将来に向けて新たな展開をみせています。今後、当協会の支援のあり方も少し工夫が必要になるかもしれません。
(H)

●バンコクの今昔、タイ国の発展が実感できます。1冊いかがでしょうか。
(O)

編集後記

埼玉・タイ王国友好協会ウェブサイト

<http://www.saitama-thai-fa.ecnet.jp/>

●会員増強にお役立て下さい

会 員 募 集

年会費 法人会員 2万円 問い合わせ TEL:049-247-5428
個人会員 2千円 FAX:049-246-2118

(武州ガス社内)